

平成30年3月1日

あきる野市議会議長 殿

会 派 名 明るい未来を創る会
代表者氏名 合 川 哲 夫



会派の（ 調査研究 ・ 研修 ） 報告書

このことについて、下記のとおり実施したので報告します。

記

1 調査研究または 研修実施日	平成30年2月6日（火）～ 平成30年2月8日（木） 2泊3日
2 調査研究または 研修の場所	6日－新潟県三条市 （別紙1～2） 7日－新潟県燕市 大雪による交通渋滞のため中止 8日－社会福祉法人悠揚会「はるばてお」
3 調査研究事項 または研修名	三条市 商店街活性化の取り組みについて 燕 市 中止 大雪のため さいたま市大宮 「はるばてお」の運営方針について
4 参加者氏名 （5名）	清水晃、奥秋利郎、中村のりひと、村木英幸、合川哲夫
5 調査研究または 研修の概要及び 感想等	別紙のとおり

※ 自家用車を使用した場合は、必ず自家用車使用報告書を添付してください。



1 日目

2月6日 新潟県 三条市
視察内容 商店街活性化の取り組みについて

1、三条市の概要

面積 432.01km²

人口 99,727人 (平成29年3月31日現在)

新潟県のほぼ中央に位置し、大河信濃川が流れ昔は水運の便が良く、現在では関越自動車道、上越新幹線と、首都圏へのアクセスは非常によく、また市内の刃物、食器等々、隣の燕市ともこの種の産業が盛んである。

2、視察研修

テーマは前述の「商店街の活性化の取り組みについて」ということで、商店街のシャッター通りからのにぎわいを取り戻すとしている。

全国各地で取り組んでいるが、その成果が顕れているかと言ったら、疑問符がつくことが多いのではないかと、少子高齢化が進む現在ではそんな状況が目につく。

この三条市では、市の組織に「市民部地域経営課中心市街地活性化推進係」を設け専従職員をつけて取り組む、やる気ある事業に注目し、わが会派では視察を行った。



研修風景

3、研修内容と感想

中心市街地活性化推進係の中村主任より説明を戴く、

まず、三条市の中心市街地活性化の取り組みとし、スマートウェルネス三条の取り組みで、だれもが生涯にわたり健康で幸せに暮らす街づくりをテーマに、外出の楽しみを刺激し、歩くことによる健康の増加と恒常的なにぎわいの創出、そこから生活基盤の充実と日常的な外出機会へ繋げ、歩行者天国などで、自然に「歩く」ことを促す。

こうした基本的目標を定め、「三条マルシェ」と銘をうち、35人の一般市民の構成で実行委員会を立ち上げ、その事務局を市が担当する組織が誕生した。

その実行委員会の企画による、中心市街地に拠点施設（TREE）を設け、中心市街地における市民活動の活性化・商店街を中心としたコミュニティの再生・商業の活性化、を目的に、若者の自己実現の場を生み、若者たちを呼び集めまちの魅力を情報発信して活性化を押し進めている。

また日常的な外出促進を図る「ステージえんがわ」では地元食材を利用し、地域の人のボランティアで食事の提供し、お年よりが街中に出て頂き、集い、コミュニティが生まれる。

また「さんちゃん健康体操」を充実させ、商店街にお出かけして戴く、そんな取り組みもして、にぎわいを側面から応援して活性化の一翼を担っている。

商店主も、市の援助による施設整備補助金制度を利用し店舗を改修し、街中に人が呼べるような店舗にする。また空き家の改修と新規出店補助制度も利用可能で、そんな施策も取り入れている。

等々様々な、グローバルにかつ総合的な角度から事業展開し、市民を中心に活動をしていき、若者からお年寄りまでも巻き込み、中心市街地商店街を活性化していく事業の取り組みに関心を持ち、かつ永続的な事業展開ができるとよいと思った。

2日目

2月7日

燕市視察10時～12時までの予定を中止

大雪のため交通渋滞が激しく予定通りの行動がとれず、三条市で足止めをされ、予定の新幹線、三条発15:16分（とき328号で）大宮へ向かう。



三条市ホテル前の歩道

3 日 目

2月8日 さいたま市大宮

社会福祉法人悠揚会「はるばてお」視察

事業内容 特別養護老人ホーム ユニット型全室個室定員80名

ショートステイ 定員 10名

デイサービスセンター 定員 30名

大宮駅から南西に1.5kmほどに位置し閑静な住宅街の一角に、屋敷森と竹林に囲まれた閑静な雰囲気の中にホームの建物が目に入る。

施設長塩原正彦氏の出迎えを受け、会議室で説明を聞き、その後施設内見学をした。

全室個室の10名単位のユニット型とし、明るく、風通しの良い設計になっていて、居住環境は集合型に比べ、格段に良いと思う。

施設の歴史は新しく平成18年に開設し、「家での生活をそのままここへ」を運営方針に掲げ、「一人一人の思いを大切に生きる力を支えます。」をモットーに運営している。

そこには、この1千坪にも及ぶ広大な敷地を何か世の中のために、お役に立てるようにとの思いで新藤ハルさん（故人）は全屋敷と母屋、納屋、長屋門を、また隣接のアパートも無償で提供してくださった、ハルさんの意志を理事長はじめ、施設長、職員がしっかりと受け継いでいることの表れと言える。

母屋はデイサービス用に改修され、その他の建物も用途に応じた建物に改修され、広い屋敷の竹林には、歩行訓練用に柔らかいアスファルトで舗装された道が施されていた。ちなみに施設名「はるばてお」の「はる」は新藤ハルさんの名前から付け、「ばてお」はスペイン語の中庭の意味。

以上のような故人の遺志と、それに沿った運営方針、広大な屋敷の自然をうまく取り入れた福祉法人施設に入居されている人たちは幸せではないかと感じた。

以上



「はるばてお」玄関前にて